

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170400956		
法人名	医療法人 福和会		
事業所名	グループホーム 朝風		
所在地	札幌市手稲区曙11条2丁目3番11号		
自己評価作成日	平成25年10月31日	評価結果市町村受理日	平成25年12月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0170400956-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0170400956-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成25年11月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護理念 1、ゆつくり 2、いっしょに、 3、楽しい暮らし
入居者が毎日笑顔で楽しく暮らせるように理念を念頭に本人御家族とのコミュニケーションを大切に日々ケアの向上に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

札幌市郊外の病院の広大な敷地内にある2階建て2ユニットのグループホームである。居間や食堂など共用空間が広く、常に清潔に保たれており、季節の装飾や絵画などがふんだんに飾られ、温かみのある雰囲気となっている。トイレが各ユニットに5つもあり、キッチンや浴室、事務所も使いやすく造られている。介護理念にあるように利用者がゆつくりと楽しく過ごしており、職員も笑顔でやさしく利用者へ接している。母体病院が隣接し管理者も看護師であることなどから、医療面での支援や連携に優れ、利用者や家族の安心につながっている。サービス評価に関しては、前回の期待したい項目について真摯に取り組み、各項目とも改善が実現している。特に地域との交流では幼稚園との交流が活発になり、利用者の楽しみとなっている。食事の面でも栄養士によるきめ細かな献立のもと、彩りが豊富で味付けの良い食事が提供されている。外出の面では、日常的に敷地内を散歩したり事業所裏で畑作業を行うほか、年間行事でも法人の車を利用して動物園や和食チェーン、ホテルのレストランなど様々な場所に頻繁に出かけている。また、隣接するケアハウスで趣味の活動や住民との交流に参加したり、スーパーの訪問販売に出かけるなど、利用者には様々な楽しみを味わうことができている。
---

V. サービスの成果に関する項目(朝風 I アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	○	↓該当するものに○印		○	↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています(参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆつくりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている(参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている(参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風 I)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の命と心のケアと家族の心身の緩和に努める事を法人理念として掲げゆくり、一緒に、楽しく、地域に根差して生活できる事を目標に日々取り組んでいます。	運営理念の中に「地域に根ざした穏やかな暮らし」という文言があり、地域密着型サービスの理念として確立している。さらに介護理念があり、両理念とも共用部分に掲示し共有している。職員は裏に理念を書いた名札を携帯している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、町内会の総会に出席、今年は町内会の方の訪問がありました、小学校の資源回収に協力、昨年より近隣幼稚園の年長さんと交流しています。	地域との交流が徐々に活発になっており、具体的には幼稚園の児童が年に5回程度事業所に来訪し、歌や踊りを披露して利用者とは交流している。また、町内会の住民が来訪したり、区のふれあいフェスティバルで区民の見学も受けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で町内会の方に日々行っている支援の報告を行い認知症への理解をいただいています。又地域の人に役立つ情報も提供しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	御家族の方に地域包括支援センターの方たちの取り組みや町内会とのかかわりかたについて報告また意見交換の場になっています。	会議は2か月毎に開催され、地域包括支援センター職員、町内会の各役員、利用者や利用者家族などの参加を得て、行事や口腔ケア、災害対策、外部評価結果などをテーマに意見交換している。また、議事録を全家族に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護度申請、介護度区分変更申請、オムツサービス申請、などで市の担当者と連絡を取りあい協力関係を築いています。	運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加があり、情報提供を得ている。また、管理者が区の管理者会議の代表を務めて行政担当者と情報交換している。ふれあいフェスティバルで区民の見学者を受け入れて協力している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	指定基準を職員が理解し身体拘束をしないケアを実践しています。玄関の施錠は夜間のみ防犯上の理由でおこなっています。	職員は病院勤務の経験がある方が多く、身体拘束の禁止事項について理解し、身体拘束は一切行っていない。今後はマニュアル等も整備する予定である。玄関は夜間のみ施錠しており、日中は自由に入力できるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	社外で実施されている研修への参加、及び通達を確認しながら職員への周知を行っている。また研修内容を合同会議で発表し意見交換を行い防止の徹底を図っています。		

グループホーム「朝風」

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風 I)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市の管理者会議にて後見制度についての講義があり理解することができました。今後に役立てていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所、退所時 利用者、家族に十分な説明と話し合いをもち理解と納得をしていただいています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活の中で利用者、家族の意見、希望に耳を傾け毎朝のミーティングやフロア会議、運営推進会議においてに反映している。	家族が頻繁に来訪しており、来訪の際や電話で意見や要望を聞いている。母体病院の医師と家族の話し合いの内容も事業所で把握している。また、家族に2か月に1度ユニット毎にホームだよりを送付して様子を伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者は共に現場で考え助言する統括ホーム長を組織の中に置いており毎日のミーティング時または月一回のホーム長と管理者会議において職員の意見の反映につとめています。	職員は毎日のミーティングで意見交換するほか、2年前から2か月に1度合同会議を開催しており、より意見交換や相談がしやすくなっている。管理者と職員の個人面談も随時行っている。職員は、利用者ごとに担当を決めたり、室内装飾を分担して運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	統括ホーム長に職場状況を日々報告し環境整備、条件の整備をはかっていただいています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	札幌市やグループホーム協会主催の研修に参加しスタッフ全員に報告し質の向上に努めました。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区の管理者会議に出席し意見交換行っています。介護支援専門員の研修に参加し同業者との意見交換やネットワークづくりをしました。		

グループホーム「朝風」

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風Ⅰ)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居受付窓口は運営法人の相談員で入所前より相談員より情報をいただいております、また施設見学時に不安なこと、希望などに耳を傾け良い関係を築くように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時利用者、家族から不安なこと希望が出しやすい雰囲気づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時に家族、本人の要望を確認し、できる事出来ない事をしっかり説明する事で、信頼関係を築いている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者から学び得る事は多々あり(人生の先輩)職員はその入居者に感謝の気持ちをもちながら接している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現況報告を月一回必ず行い、入居者自信を中心とした関係作りに努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との外出、外泊や家族、知人、親類の面会の時間を大切にしています。	友人や知人が来訪する利用者もおり、歓迎している。幼稚園の児童からの手紙に利用者と共に返事を書いている。利用者の趣味を継続するために隣接するケアハウスの活動に同行したりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶会、誕生会 パスレクレーション 収穫祭 等皆で楽しむ行事を企画して支えあう関係をきずいています。		



グループホーム「朝風」

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風 I)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までの関係はこれからも継続する事を伝え気軽に立ち寄ってもらえるように働きかけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々本人御家族の意向を聞くようにしており、本人の立場に立ったケアプランの立案、実践 評価を通して思いやり意向をしっかりと捉える努力をしています。	言葉で思いや意向を表出できる方がほとんどであるが、難しい場合も仕草や表情、家族の情報などから把握している。ライフヒストリー表、アセスメントシートなどを作成し定期的に更新し共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に出生から現在までの生活歴をかいていただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録に毎日の健康状態や一日の過ごし方を記録しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	チーム、家族、本人(難しい場合本人の意向)を含めて共同で作成している。	介護計画を3~6か月で見直し作成している。モニタリングを基にカンファレンスを行い、職員や家族の意見も取り入れ計画を更新している。日々の記録は計画目標に沿った記録を目指しているが、記載方法や書式はまだ検討中である。	日々の記録について、よりの確で分かりやすい様式や記載方法を検討しているため、改善の実現を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づいた実践を日々記録しており、その結果をプランの見直しにつなげています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	期間に応じ見直しを行っており、又、本人の変化が生じた時にはその都度対応を検討し、プランの修正をおこなっています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣幼稚園との交流会や運営推進会議への参加、ボランティアによるマジックショー。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医である協力医療機関や、他科など利用者」が希望する医療機関への支援体制も確保しています。看護師が日常的な健康管理や受診経過の把握、医師との連携で医療支援に努めています。	毎日、母体病院の院長が利用者の様子を見に来たり、看護師である管理者が健康チェックをしている。内科以外を受診する場合も家族が難しい場合は、事業所で通院支援をしている。受診内容は医師からの情報提供書などで確認できる。	

グループホーム「朝風」

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風 I)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の健康管理や助言、対応を行い支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院を第一に相談し、必要な情報を交換、共有しつつ、入院中も安心して過ごせるよう配慮、支援しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態に応じて早い段階から、かかりつけ医、経営者、管理者と家族で随時話合いの場を設けてその都度方針を確認しあっています。	利用開始時に、「重度化した場合の対応について」に沿って事業所の方針を説明し、同意書を交わしている。実際に重度化した場合は医師や家族と相談し、入院となる場合がほとんどである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	隣接している病院と医療連携をとっており急変時は日中、夜間共に診察を受けれる体制になっています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防火訓練のほかに職員全員が避難、通報方法を身に付ける訓練を昨年は8回行い今年も2回行っています。又隣接病院と協力体制を築いています。	年2回、昼夜を想定した避難訓練を行っており、町内会役員など地域住民の訓練への参加も得られている。職員の定期的な救急救命訓練の受講も行われ、災害時に必要な備蓄品も準備されている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人のプライバシーを守り、言葉や、語調について配慮し支援しています。	接遇を学び節度をもった対応を心がけているが、馴れ馴れしい言葉遣いがあった時は、その都度注意している。記録中に席を立つ時は職員室に仕舞い、書類などは適切に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる人は意向を確認し支援し自己決定難しい人は表情や仕草から気持ちを読み取り、可能な限り意向を確認し支援するよう努力しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースに合わせ、必要な支援を行っている。又本人のペースを尊重しつつ体力や、状態にあわせた生活の組み立ても考え支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	必要に応じ、訪問理容、美容を利用し、一人一人が大切にしているおしゃれや身だしなみを支援しています。		

グループホーム「朝風」

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風 I)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	屋食、夕食時には音楽を聞きながら職員と一緒にメニューを確認しながら食事をします。又個々の誕生日には希望のメニューにしています。	栄養士は利用者の好みを聞き、献立に取り入れている。年に数回はバイキングやランチなどの外食をしたり、屋外で食事をすることもある。職員は、盛り付け、お茶入れ、テーブル拭きなどを利用者にお願ひし、食事を共にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日1000mlの水分を取るよう支援しています。専属の栄養士が栄養バランスを考えた献立を作り個々の状態に応じた食べ方を指導してくれています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず歯磨きをしていただいています。自力でできるひとは声かけしてます。出来ない方はこちらで支援しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間毎にトイレ誘導し排泄の失敗を少なくしています。	全員の排泄状態を記録し、昼夜を通してトイレでの排泄支援を行い自立に向けている。耳元でトイレを促し、プライバシーに配慮している。トイレを嫌がる利用者には皆が行く時間帯に合わせて、自然な流れで誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便の出る時間を把握しトイレ誘導しています。又食事メニューに繊維質のあるものを取り入れたり、水分を多めにとらせていただいています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	心身の状態を把握し、配慮しながら実施している。本人の意向で熱い湯、ぬるい湯と調整して入浴を楽しんでいただいています。	週4日の入浴日を決めて午後の時間帯で、利用者の希望に沿って週2回の実施している。入浴を嫌がる場合も気分を見て対応し、週1回は入っている。安全面に配慮し、浴槽から出るときに職員2～3人で介助することもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室で休めないとき、職員が話し相手になったり眠れるよう1人1人にあった方法や環境を把握し対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師の指示に基づき、わからないところは確認しながら服薬の支援と変化の確認につとめている。誤薬がないようスタッフ間で声かけしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴等の情報から職業や趣味を生かし役割分担や行事参加等の楽しみを利用者とともにしています。		

グループホーム「朝風」

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風Ⅰ)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の天気に合わせて戸外散歩やバスレクリエーションで山に行ったり、北海道神宮に出かけたり、動物園に行ったり、外食にでかけたりしてます。	天候を見て、近くの公園や敷地内の母体病院、ケアハウスの中庭を散歩し、畑づくりなどで戸外に出る機会が多い。外出計画で月に数回は全員で出かけている。冬季も、ケアハウスでのスーパー訪問販売での買い物や、病院の多目的ホールに設えた神棚のお参りをする際に外気に触れている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の認知能力に応じてお金を所持させています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の認知能力により電話や手紙を書いていただく。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに装飾をし又利用者の作品や写真を貼り楽しみがもてるようにしています。	共用空間は食堂と居間を各コーナーに分け、各居室近くには4か所のトイレを配置し、生活に配慮した造りになっている。居間のソファに座って大きな窓から遠くの景色まで眺められる。利用者と一緒に作った季節の作品や行事の写真が貼っており、家庭的で温かい雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでのソファの座る位置がそれぞれきまっており、それぞれが一番安心できる場所になっています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物をもってきていただき、居室内で心地よく過ごせるよう配慮しています。	居室の壁面を工夫した収納スペースに、洋服掛けや馴染みの家具類・趣味のものを収めている。出窓の棚には、縫いぐるみ、花、家族の写真、装飾品などを置き、壁には写真や作品が貼っており、その人らしい居室づくりになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	通路、トイレ浴室には手摺がついており安全に使用できる、各スペースも広くつくられているので車椅子でも安全に過ごすことができる。		



自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170400956		
法人名	医療法人 福和会		
事業所名	グループホーム 朝風		
所在地	札幌市手稲区曙11条2丁目3番11号		
自己評価作成日	平成25年10月31日	評価結果市町村受理日	平成25年12月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護理念	1 ゆっくり 2 いっしょに 3 楽しい暮らし
------	-------------------------------

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0170400956-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0170400956-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成25年11月29日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--

V. サービスの成果に関する項目(朝風Ⅱアウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風Ⅱ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域に根差した穏やかな暮らしを大切にし利用者の命と心のケアと家族の心身の緩和に努めます」という理念を掲げて実践できるよう努力していきます。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会加入し町内の草刈清掃に参加し地域の一員として交流し努力している。地域推進会議においても複数の役員の方に来て頂き交流を図れるようにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の訪問があった時はグループホームの役割、認知症の方の接し方支援の方法をアドバイス出来る様にしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に出席できなかったご家族へ会議録を送り、内容理解して頂き来訪時意見や話を聞きサービス向上に活かせる様にしています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者の方とは、管理者会議にて情報を得るアンケート調査にて実情報告必要な知識を得る機会を確保しています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜間のみ防犯上の理由で施錠しているか、日中は開錠し自由に出れる様にしている。身体的拘束はしていません。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修に参加し内容を日常的に話し合いグレーゾーンの虐待を見逃さないようお互いに注意し合い防止に努めている。		

グループホーム「朝風」

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風Ⅱ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の研修を受け入居者の状況に適切に対応出来る様に努力しています。家族とも話し合いを進めているとことです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	「重要事項説明書」「運営規定」「利用契約書」などをもとに十分な説明を行って理解納得できるようにしています		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口、第三者委員を設置し、苦情処理に努める様にしています。又、家族から気軽に相談、話が出来る様にし運営に反映出来る様にしている		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	統括ホーム長を中心に月1回話し合いを開催し、職員の意見を伝え反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力実績などお互い評価し合っていることなど、統括ホーム長へ報告代表者に伝え向上心を持って働ける職場環境になる様努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修計画をたて必要な研修に必要と思われる職員が参加し学んだことを合同会議で勉強会を行っている。参加できなかった職員へ伝達できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他ホーム訪問、管理者会議で学習したことをホーム内で活かしてサービス向上に努めている。		

グループホーム「朝風」

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風Ⅱ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	運営法人の相談員との連携を良くし本人家族からの話をよく聞いて利用者本位にたった支援ができるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いを大切に要望に柔軟な対応し安心して貰える様、関係づくりに努力しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族の要望をふまえ現在必要としている支援を他のサービス利用も含めた対応に心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ない事はさりげなく支援し本人の出来る事は手伝って頂き、生活が楽しめる様お互い助け合い暮らしていく姿勢で生活している		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が気がかりなこと希望意見が気軽に話せる様雰囲気づくりに努め、面会時声かせや電話連絡を取り合い本人を支えていく関係となる様にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者一人ひとりに対する家族や親しい人の訪問や手紙、電話を通して関係が継続するように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士のトラブルの原因を把握しその解消に努め穏やかに過ごせる様、支援している。又、孤立している場合は声掛け一緒に行動し支え合える様に努めている。		



グループホーム「朝風」

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風Ⅱ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者家族に十分な説明を行った上で転居できる様に支援、引き続き相談に応じる様に努力している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人家族の思いや希望の理解に努め出来る限り本人本位の暮らしが出来るよう検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	可能な限り本人家族友人知人から聞き取りを行い情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの中からひとりひとりの心身の健康状態有する能力等の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人らしく暮らせるためにアセスメントに基づいて目標をたて関係者と話し合い意見を反映した介護計画の作成を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の記入を行い、常に職員間で情報を共有しアセスメントに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	週2回の音楽療法や個別リハビリ治療法、協力医療機関で季節の行事に参加している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全で豊かな暮らしを楽しむ事が出来るよう周辺地域から協力を得ることが出来るよう理解を広げる働きかけを行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	適切な医療を受けられるよう、かかりつけ医である協力医療機関のほか他科など希望する医療機関への支援帝政が整っている。		

グループホーム「朝風」

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風Ⅱ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者である看護師が常勤不在時の情報報告により、いつでも外来受診で医師と相談できる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報を提供し随時訪問した電話連絡により情報後根、様子を知り早期退院に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における対応(看取りの方針)につて家族と話し合いを段階的に行い不安のない様に支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	病院本位がバックアップ施設となり24時間支援体制が確立されており、いつでも看護師の支援を受けられる体制になっている。勉強会で訓練を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署、病院の協力にて訓練を行っています。階段に簡易滑り台、手作り担架を考案作成し自主訓練し全職員が出来るようにしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重した声かけ関わりをもってプライバシーを損ねるような対応にならないよう努力している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人お思いや希望で自己決定に結びつけている。表情やしぐさなどから思いをくみ取り自己決定に近づけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団で行う活動を優先することもあるが、本人のペースを大切に希望に添った暮らしが出来る様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの希望に合わせて現美容院の利用を支援し身だしなみやおしゃれが出来る様にしている。		

グループホーム「朝風」

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風Ⅱ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は入居者と同じ食事を一緒に食べ、さりげなく観察し栄養士に報告し献立・調理に活かしている。職員と一緒に片付けをしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考え栄養士が献立を作り、一人ひとり食事・水分量を把握できる様にしている。その人の状態に合わせて食事の形態を変えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの力に応じた口腔ケアの支援を毎食後に行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツを出来る限り使用しないで済むように一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をプライバシーに配慮して行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操、歩行を毎日行い、野菜が多い献立を専属の栄養士が立てている。排便の状態を把握し下剤調整浣腸を看護師が行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めているが一人一人健康状態をみながら意思を尊重し本人のペースでゆったりと入浴できるように介助支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は居室や共有のスペースのソファで自由に休息を取って頂き、夜間は居室の室温・寝具の状態・入眠状況の確認を行い安心して気持ちよく眠れる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬についてほぼ理解しておりその人の力に応じた服薬支援を行い症状の変化の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが張り合いや喜びのある生活が送れるように配膳・お茶入れ・掃除・縫い物・洗濯物たたみなど、その人の力に応じた役割を担って貰ったり、個々の希望に添った気分転換にも対応できるようにしている。		

グループホーム「朝風」

自己評価	外部評価	項目	自己評価(朝風Ⅱ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り本人の希望にそった外出の支援になる様に努力しているが、身体機能低下に伴い外出を好まない方が増えているが、散歩・近隣訪問・畑・年5回バスレクレーションを企画し出かけられるよう支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる人は自分で管理しているが、使用するチャンスが無いようである。日常の金銭管理が出来るよう希望に応じ支援できるよう努力する。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が手紙や電話を日常的に利用できるようにしているが、少なくなってきた。電話の利用・手紙など推奨し支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファの位置など工夫し過ごしやすい空間作りに努めている。季節の花を飾ったり作品を飾り季節感を楽しみ、家庭的な雰囲気を感じて頂けるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にテーブル、ソファを置き廊下の奥にベンチがあり自由に座り談笑で居心地良く過ごせる様に工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた馴染みのある家具や生活用品・装飾品を置いて頂き、安心して過ごせる様に配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの出来る事を理解し、その人の力に応じた行動を見守り、自立支援を図り安全に過ごせる様にしている。		



目標達成計画

事業所名 グループホーム「朝風」

作成日：平成 25年 12月 9日

市町村受理日：平成 25年 12月 11日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	現状の記録様式では内容を理解するのに時間がかかる。記載方法も検討し誰が見てもわかる記録にしていきたい。	ケアプランに沿った記録ができ、誰が見てもすぐわかる記録様式にしていく。	記録様式は昨年より検討しておりほぼできているため実践に向けもう一度内容確認し実践していきたい。	6か月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。